

## 肥後医育振興会に期待する



一般社団法人熊本県歯科医師会 会長  
伊藤 明彦

細川藩再春館以来二四〇年におよぶ肥後医育の伝統を支えとし、熊本での医学教育や研究を助成し、地域医療の向上と住民の健康増進を図る目的で設立された、肥後医育振興会の数多の事業活動に対しましては、深く敬慕するところであります。

令和の響きがすっかり馴染みとなった現在ですが、世界の中でも日本は稀有な高齢化の渦中にあり、同様に、熊本県でもその問題に直面しています。これまでは、団塊の世代が七十五歳以上となる「二〇二五年問題」が越えるべき「壁」として、対応策が講じられてきました。その壁は既に目前にまで迫っていますが、次に、日本の高齢者である六十五歳以上の数がピークを迎える「二〇四〇年間

問題」という更に高い「壁」が控えています。この壁では、世代間の不均衡が著しい水準に達し、一人・五人の現役世代が一人の高齢世代を支えることとなります。現役世代の負担軽減を図ることが急務ですが、すぐに解決できる問題ではありません。

この問題に対し医療がどのように貢献できるのか、歯科の立場から挙げさせてください。まず何よりも健康な高齢の方々が増えていく、ただことに尽きます。現在、熊本県には「歯および口腔の健康づくり推進条例」があり、フッ化物洗口によって、むし歯保有率は減少しています。加えて8020運動（八十歳で自分の歯を二十本以上保有しよう、という運動）も広く知られてきています。二十本以

上の歯があると何でも美味しく食べられることや、歯の喪失部分が多くなるほどに転倒・骨折のリスクが高まり、寝たきりになる可能性が高くなる、ということに基づきなされている運動です。この運動が始まった平成元年には、達成率は僅か七%ほどでしたが、令和となった現在では五〇%超となり、ますます増え続けています。また、

メディア等でも、歯周病と全身の健康との関係や、自分の歯で食べ続けられることは健康の維持に直結することが、頻繁に報道され、歯と口腔の大切さが、社会全体に浸透してきていると思います。

しかしながら、各郡市で実施されている各種歯科検診の受診率は未だに低いままで。この受診率を高めることは健康寿命の延伸に確実に繋がるため、更に促していかなければと考えます。

このように、口腔機能を守ることによって、食べて、楽しく会話し、良好な健康状態で社会に参加

することが可能になります。更には、社会性や認知機能の向上にも繋がっていき、現役世代として長く活躍し続けることを実現できると思います。

日々、社会の問題は変容し、社会が医療に求めるものも移り変わっていくと考えられます。その状況の変化に対応するための検討議論がなされますよう、これからも肥後医育振興会の活動に期待しております。

